

地盤調査規格・基準委員会

平成23年度第4回 議事録

日時	平成24年 2月28日 (水) 14:00~17:00			場所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫	○	幹事 (岩)	長田 昌彦	○	幹事 (土)	利藤 房男	○
委員	浅古 勝久	×	WG1委員	松島 潤	×	WG1委員	斉藤 秀樹	○
WG2委員	木村 英雄	○	WG2委員	水谷 崇亮	○	WG3委員	井尻 裕二	×
WG3委員	小松 満	○	WG4委員	平林 弘	○	WG5委員	小早川 博亮	○
WG5委員	山本 裕司	×	WG6委員	中村 洋丈	○	WG7委員	浅井 健一	○
WG7委員	藤崎 勝利	○	WG8委員	日比 義彦	○	WG8委員	藤根 拓	○
WG10委員	太田 英将	○						

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席 △：未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無 番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H23-12-16)	・ 資料23-4-1
ワーキング1~10	・ 解説	・ 資料23-4-2 WG1~WG10
地盤調査規格・基準委員会	・ 基準番号の変更に関して	・ 資料23-4-3
同上	・ 地盤調査の方法と解説の販売促進に関して	・ 資料23-4-4
同上	・ 地盤調査基本と手引きのワーキング設立に関して	・ 資料23-4-5
基準部会	・ 平成23年度 第5回基準部会報告	・ 資料23-4-6
会員からの質問		・ 資料23-4-7
地盤調査の方法と解説	・ 目次案	・ 資料23-4-8

審議事項

- (1) 前回議事録確認 (資料23-4-1)
 - ・ 特に意見なし (承認)
- (2) ワーキング1~10 解説 (資料23-4-2 WG1~10)

【全体】→次回基準部会3/7には今回提出の解説と前回委員会分を取りまとめ提出

- ・ 解説の進捗状況は、WG2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10はほぼ揃った段階。WG1の3, 4, 9, 10章及びWG5の1章は執筆中。
- ・ 次回の地盤調査規格・基準委員会 (H24年5月7日) には、全て完了した原稿を提出することとする。
- ・ データシートは完成したものから幹事へ提出する。幹事から、表記法委員会へ提出し、内容の確認を行う。
- ・ これまでの委員会の議論で、解説の執筆要領を変えないとならない部分が出てきている。執筆要領の改訂点を幹事の方で取りまとめ、ワーキングに連絡する。
- ・ 解説の他の箇所を引用する場合は、同じ編、違う編で、以下のとおりとする。
 - 同じ編：本編第○章 (あるいは本編○.○) 参照 (参考)
 - 参照、参考はニュアンスに応じて使い分ける。

違う編：第○編第○章（あるいは第○編○.○）参照（参考）

- ・式番号の本文での記載→式（○.○.○）とし、式()はMS明朝、○.○.○はTimesとする。
- ・小冊子の引用は、通常の基準の引用と同じように参考文献として引用してよい。

【WG9に関して】

- ・図1.1.2は、委員会の意見を受けて修正する（第○編は不要では、ボーリングなど概略調査で実施することもある、上と下のフローを切り分けた方がよい）。
- ・表1.2.1、1.2.7は削除する。
- ・表1.2.3は委員会での指摘事項を受け修正する（2、4、5、11編、室内試験は不要、10編は初期地圧だけ記載）。
- ・表1-2-10はWG10で確認する。

【新規委員会】

WG3から提案されている新規ワーキング（孔内流向流速）は、ワーキング内に置きたいとの提案があった。谷委員長から、基準作成ワーキングはこれまで新規に作っているので、メンバーがWG3と同一でワーキング開催を同じ日としてもよいので、新規ワーキングを立ち上げるよう再検討するよう要請があった。

【基準案に対する会員からの質問対応】

地盤工学会誌及びホームページに掲載したWG3の基準改正案（トレーサーによる地下水流動検層）に関して会員から質問が来た。これに対する対応方針が示され承認した。→次回基準部会3/7の審議事項

(3) 基準番号の変更に関して（資料23-4-3）

基準番号を大幅に変更すると、役所の仕様書関係で混乱が生じる可能性があること、岩の基準は「3」の番号で統一する方針があることより、基準番号は、以下の点に関し最小限変更する。

- ・1421-2003→1531-2012に変更
- ・3541-2009、3551-2009→3741-2012、3751-2012に変更するかどうかは、長田幹事の方で岩の番号の決め方を確認した上で、再検討する。
- ・3521-2004は廃止するが、この番号は当面欠番とする。
- ・3431（新規）は、土の基準であるので、1541-2012に変更する。
- ・3432（新規）は、長田幹事の方で岩の番号の決め方、一種のサウンディングであることを考慮し、再検討する。
- ・基準番号を変更する際には基準部へ上申するとともに、今回改定する地盤調査の方法と解説に明記する。

(4) 地盤調査の方法と解説の販売促進に関して（資料23-4-4）

販売促進は、従来通り全国の講習会と支部での講習会を行う方針とする。なお、ワーキング3に関しては、地下水関連だけの講習会も企画する。他のワーキングも今後必要に応じて検討する。

(5) 地盤調査基本と手引きのワーキング設立に関して（資料23-4-5）

- ・事務局から、地盤調査基本と手引きは、書籍の需要時期を考慮し、平成25年8月発刊を目標に実施してほしい旨、お願いがあった。
- ・地盤調査規格・基準委員会内にワーキングを立ち上げ（ワーキング12）、グループリーダー候補は日比委員とする。
- ・ワーキングの活動期間は、平成24年4月から2年間とする。設立趣意書を作成し、基準部会へ報告する。→次回基準部会3/7の報告事項

報告事項

(1) 基準部会報告（資料23-4-6）

- ・特に意見なし

(2) 会員からの質問（資料23-4-7）

- ・特に意見なし

(3) 地盤調査方法と解説目次案（資料23-4-8）

章、節などの記載方法を以下のように統一することとした。

- ・基準の節は、〇.〇 日本工業規格「規格名」or地盤工学会基準「基準名」とする。
- ・結果の解釈と利用の節は、原則「結果の解釈と利用」で統一する。ただし、理由あれば例外を認める。
- ・「結果の解釈と利用」、「基準以外の方法」の両者がある場合は、この順番を原則とする。ただし、理由あれば例外認める。
- ・各ワーキングでは、担当する解説目次案について、上記内容を修正するとともに、〇.〇.〇のタイトルを決定し、幹事に送付する。